

科目名	野外観察		履修学年	第2学年	
			履修形態	選択	
			履修単位	2単位	
使用教科書 (出版社)	なし				
使用教材 (出版社)	なし				
学習の目標					
<p>人と自然の関わりや、郷土の自然への理解を深め、自然を守り育てる態度を身に付ける。野外における実験・観察やものづくりを通して、自然現象について調べる能力を身に付けるとともに、一つのことを協力して成し遂げる充実感を味わう。</p>					
教科担当者から					
<p>活動・作業が多くなります。事前の説明をよく聞いて、安全に留意した調査・実習を行っていきましょう。自ら積極的に動き、周りとの協力して活動しましょう。日々の授業の中での取り組みを重視して評価を行います。</p>					
評価の観点・方法・割合					
観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解	
規準	身近な環境・自然科学現象に興味関心を持ち、それらを科学的に見る意欲や態度をもとうとしている。	地域の自然や環境について、一つの考えにとらわれず、様々な角度・立場から考察することができる。	作業・観察・調査などの基本技術を身につけられる。観察・調査の過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。	身近な環境や自然科学現象について理解ができる。調査の結果を表現する方法の知識を身に付けている。	
方法	※ ◎は観点の中でより重視するところです。				
学習の状況 の観察	○		◎	○	
実験の取り 組み	◎	○	◎		
レポート		◎		◎	
提出物	○	◎	◎	○	
定期考査					
割合	20%	25%	30%	25%	
評価の基準 ※ 満点を100点としたとき					
5	4	3	2	1	
100点～85点程度	84点～70点程度	69点～45点程度	44点～30点程度	30点未満	

学習内容								
学期	月	単元名／学習内容	学習のねらい	評価の観点				時間
				関	思	技	知	
前期	4	・野外観察の基礎学習 地図評価	・野外観察の方法や技術を習得し、地域の自然の調べ方の基礎を身に付ける。また地図作成の方法を学び方位磁針と紐で学校周辺の地図を作成する。	○	○	○		8
		・植物観察、昆虫観察（～7月） スケッチ評価	・身近な植物、昆虫の分布や生態を学び、地域の自然について理解を深める。また、顕微鏡での観察やスケッチを通して、その構造を細部まで学ぶ。	○		○	○	4
	5	・水質調査（～10月） レポート評価	・標津の河川や沼の水を採集し、水温などを記録するとともに水質調査のデータを収集する。また、標津湿原の地下水位調査にも協力する。	○		○		4
		・農耕基礎実習（～9月）	・耕作地を整備し、様々な条件下で作物を育てる実験をする。この実習を通して、農作物への理解を深める。また、室内での発芽実験も並行して進める。	○		○		8
	6	・海洋環境調査 レポート評価	・海洋環境調査の方法について学び、採集した水質の調査やプランクトン等の調査・分類を行う。	○		○	○	8
	7	・プレゼンテーション基礎（～9月） （パワーポイント作り） （原稿作り）	・学習内容をパワーポイント、原稿にまとめ、発表する経験を積み、要点を分かりやすくまとめる能力やコミュニケーション能力の向上を図る。	○		○	○	2
	8	・公園調査実習 レポート作成	・公園内における昆虫類・魚類の採集を通し、採集方法の理解を深めるとともに、採集の技能を身に付ける。また、採集した生物の分類を通し、生物分類の知識と技能を身に付ける。	○		○	○	
	9	・自然環境類型実践成果発表会 発表評価	・これまでの活動内容をパワーポイントにまとめ、これからの課題等を1年生に向けて発表する。この発表では、自然環境類型の取組についての紹介をして1年生の進路選択の一助とする。	○			○	2
	後期	10	・湿原保全対策学習 ポスター作成	・天然記念物である標津湿原に侵入するマツ類の除去を通して、科学的な野外調査の方法や環境の保全における、基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。	○	○	○	
11		・サケ学習 パワーポイント評価	・標津町の基幹産業である漁業、特にサケについて野外での調査を通し、釣獲による調査の方法や技能について学ぶと共に、漁業への理解を深める。	○		○	○	8
		・温室利用農作物育成（～3月）	・標津町にある温泉水を利用した温室の一角を借り、冬期間に農作物育成実験を行う。また、育苗し次年度に使用する苗を確保する。	○			○	2
12		・植物分類学習 スケッチ評価 レポート評価	・標津町内の植物分類を通し、植物分類についての体系や分類方法を学び、生物学の基礎となる分類学についての技能を身に付ける。	○		○		4
1		・野生動物学習 ポスター評価	・道東に多く生息するエゾシカやヒグマに関する、調査や狩猟の見学を通して、野生動物の調査方法や、調査の意義等を理解するとともに、人と野生動物の関係性について考えを深める。	○	○		○	2
2		・水鳥観察 レポート評価	・野付半島や海岸沿いに多く生息する水鳥を観察することによって、地域の環境や自然についての理解を深める。	○		○		2
3		・後期学習のまとめ パワーポイント評価 レポート評価 ポスター評価	・次年度の発表のために学習のまとめを行う。	○			○	8
								70